

手筋は樂觀しつゝあり、成る程月末の市況を見れば大抵下
け止まりしやに觀測せらる。

因に米國鐵鋼組合か賣止を發表せし以來、我國の世論頗
る喧しく、當業者は揣摩を逞ふし、中には米國海軍擴張の
爲め輸出を禁止するなどの説もありしか、右は全く根據な
き説には非されとも、結局斯る事の行はるへくもあらず、唯
銑、鋼共一噸に付二十五仙の内國税を課すへしとの議政府
部内に起り、或は成立するやも料られされとも、其趣意た
る戰時に際し各製鐵所何れも暴利を博しつゝあれば、其利
益の一部を納税せしむに在るへし、而して該組合も一時餘
りに註文輻湊せしに驚き賣止の方法に出たれとも、追々落
付き來り、組合外の製鐵所にて註文を引受くるものもあり
熔鑛爐の新設も續々ありて、本年六七月頃の受渡ならば應
し難きに非すとの意向を漏せる由なるか、何分船舶拂底に
て輸送困難なる爲、之を引取る能はざる有様なれば今後輸
入の能否は一に繋りて船腹の利用如何に在りといふへし。

●銅 前月中倫敦相場奔騰して電氣銅百磅臺に吹き出し、
遂に百七磅の高直にて越年したる銅價は本月に入り中旬一
寸亂調となりしのみにて下旬は復又昂進し、百廿二圓の高
直納會を告げ、餘勢尙一段の暴騰を演出し兼まじき氣勢也。

一月五日倫敦相場現物先物共に八十六磅十七志六片、電
氣銅百十磅を報し、六日には現物八十八磅十七志六片、先
物八十八磅二志六片となりて前年六月の高直を抜き、翌七

日遂に九十磅臺に達せしか、これより暴落して八十五磅と
なり、又跳返し、波瀾重疊約二週間頗る氣遣はしめたる後
二十五日曩の高直に達し、月末二十九日には現物九十一磅
二志六片、先物九十磅七志六片に達し、高直持合の有様に
て月を終れり、電氣銅は其間割合に變化少なく、七日以降
百十四磅に持合ひし後、十九日百十五磅、二十一日百十七
磅、二十九日には百二十二磅となれり、明治四十年三月シ
、エム、ビーの百十二磅を報せし時、電氣銅か三磅上鞘を
有ちしを空前の高直とせしに、今は遙にそれを超過せり。

本邦相場は最初此氣配に動かされず沈靜して、月初僅に
五十錢の値上をなせしのみなりしか、六日に至り五十錢方
騰貴して延丁五十七圓五十錢を唱へ、七日復た一圓だけ昇
り、十五日倫敦の暴落を入れて五十錢低降し割合に落着き
居りしか、下旬に至りては倫敦相場再度の奔騰に堪まらず
月末六十七八圓に躍進せり、引續きの昂騰に最早内地手合
極めて少なく、露國輸出は從來甚た盛なりしか、其後爲替
決濟不能の爲め約定品にして引渡の運に至らざるもの三、
四萬噸あり、先約品の事とて轉賣もならず、英國に輸出す
るには船腹に乏しく始末に困れりとの事なり。

斯る騰貴の原因としては、英國に於ける軍用品の需要多
きに本つく事勿論なるか、英國か自國內に電氣精煉所を有
せず悉く之れを米國に仰ける事、其主たる原因なるへく、
さてこそ特に電氣銅の奔騰を來せしなれ。